



「長良小学校プール建設を早急に求める申し入れ」提出！ 無所属クラブ

10月20日 柴橋市長と早川教育長へ

9月議会は、「立命館高校誘致関連の予算が1票差で否決」された事案以来の議決が行われました。「長良小学校のプール建設費削減議案」が否決され、「修正案（3月議会の当初予算へ戻る議案）」が本会議で全会一致可決されました。

本紙前号でも掲載しましたが、高島屋南ビル内に歩くプールを建設する案（年間維持費2億円、50年で100億円）が以前提案された事もあります。これは、途中で提案者（細江市長）が断念。本会議で否決されたのは、立命館関連議案以来ひさびさです。

9月議会の「建設費予算を削減する議案」否決

を丁寧に説明しない教育委員会・・・？

今やるべきは、早急な入札不調原因解明と再入札では！

9月議会後の開催された住民説明会で、教育委員会が市民への説明で「予算は3月に戻ったのではなく、5月に戻っただけ」と発言するなど、「9月議会の修正案可決」へ市民の誤解を誘うような行為が。経過への、言い訳を繰り返す事ではなく、教育委員会と岐阜市が、今、行なうべき事は、「早急な入札不調原因解明」と「再入札」です。

岐阜市議会無所属クラブは、10月20日、柴橋市長と早川教育長あてに、「プール建設を早急に求める申し入れ」（掲載裏面）を提出。浅井副市長と田中教育委員会事務局長に「申し入れ書」の趣旨説明を行ない「早急なプール建設実現」を申し入れました。

小学生のディベート題材に「プールの必要性」を持ち込む目的は・・・？

仄聞するところでは、9月議会後「小学生のディベートのテーマにプールの必要性有無を持ち込んで、議論をさせた経過」があるとの事。議会で指摘された「1回の入札不調を理由に、建設予算そのものを減額する」行為の「理不尽」を棚上げし、子どもに「プール本当に必要？」と責任を押し付けるかの行為？ 耳を疑う。もし、このような教育が行われている事実があるとするなら、9月議会の「子どもの教育を大切に」との修正案可決の経過から、教育委員会は何を学んだのでしょうか・・・？

連絡先 岐阜市議会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500

長良小学校プール建設を早急に求める申し入れ

令和2年9月議会における第100号議案には、長良小学校プール建設に係る予算を削減する関連予算が含まれていた。この削減補正予算原案は、その提出経過が極めて不自然であった。一回の入札不調を工事中止の理由とされているが、岐阜市の他の事業の多くは、「みんなの森 メディアコスモス」「新本庁舎」など、入札不調後に再入札の努力をして建設が進められている。

長良小学校プール建設は、5月11日の入札不調後4ヵ月、教育委員会からは市議会へ何ら説明も無いまま、9月議会へいきなり削減予算が提出された。また、9月議会では現在まで5月入札不調の原因調査が詳細になされていない事実が、答弁された。

一方で、議会の議決が無いまま、住民説明会は5日間に渡り実施されている。その説明会では教育委員会のプール廃止方針が説明されているが、この方針は教育委員会の内部方針だけであり、議会で確認された経過は無い。小学校プールへの市民の関心は大きく、この影響は長良小学校だけに止まらない重要な課題である。更には、

当初予算審議を経て可決された予算が、担当部の勝手な判断で中止・廃止されるのであれば、議会審議全体が意味を成さないものとなる。議会軽視も甚だしいと言える。教育委員会の決算不用額を吟味する時、工事中止への財政的な理由も強弁できない。まして、当初予算で、建設を約束しながら、小学校プール廃止という子ども達の夢を断ち切るような判断は、補正予算編成の中で許されない。これらの指摘を経て9月議会で原案（予算減額）を修正し、長良小学校プール建設予算は3月当初予算に戻された。

しかしながら、聞くところでは9月議会後の市民への教育委員会説明会では「予算は3月に戻ったのではない。5月に戻っただけ。」との説明がなされるなど、岐阜市の対応は「原案否決の現実」への真摯な対応とは言い難い。9月議会での強い指摘がありながら、議会軽視が継続されている事は極めて遺憾である。

岐阜市と岐阜市教育委員会は、早急に入札不調原因調査、再入札を行ない、長良小学校プール建設を実行されるよう申し入れる。

岐阜市長 柴橋正直 様

岐阜市議会無所属クラブ

令和2年10月20日